

低炭素社会戦略センターシンポジウム「低炭素技術を取り込んだ街づくり」

日時 平成 28 年 12 月 13 日（火）13:30～17:00

場所 伊藤謝恩ホール

ご挨拶

藤吉 尚之（文部科学省 研究開発局 環境エネルギー課長）

先ほど小宮山センター長からお話があったように、「IPCC（気候変動に関する政府間パネル）」が、温暖化は温室効果ガスの影響である可能性が高いと言ったのが 2001 年でした。2007 年には、それが非常に高いとされ、2014 年の報告書では、それが極めて高く、信頼性は 95%と発表しました。2000 年以来、科学コミュニティの研究の蓄積により、地球温暖化は、人類の活動を起因とする温室効果ガスが原因であるということが科学的にも定着してきました。

そうしたことを受けて、昨年末に「COP21」で合意され、先月にパリ協定が発効したという流れです。ただ、パリ協定では、産業革命以前の地球における平均気温からの上昇を 2 度以下、さらには 1.5 度以下とする努力目標をも掲げています。これは非常にチャレンジングな目標で、従前の技術では到底達成できないということで、今年 4 月に、政府として技術を特定し、エネルギー・環境イノベーション戦略として進めていくことが決定されました。文部科学省を含めて、各省が低炭素社会の実現に向けて取り組んでいる最中です。

今年 5 月に温暖化対策計画で決められた目標は、2050 年までに 80%の温室効果ガスの排出削減という、かなりチャレンジングなものです。それに向けて、研究者、技術者、一般市民を含めて、低炭素社会に向けて取り組む必要があります。

LCS は、このように世界が 2030 年、2050 年を考え始める前からその時を見据え、明るく豊かな低炭素社会に向けた各種のシナリオや政策提言を公表してきました。今後は、そういった取り組みをさらに進め、質の高いシナリオや政策提言をどんどん出して、JST 内部のみならず、関係省庁あるいは地方自治体、さらには産業界とも、本日のような意見交換も含めて共有し、LCS の活動を通して低炭素社会の実現に貢献していくよう期待します。

以上